

真宗本廟での『親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要』が円成された。

慶讃法要中は、初めての試みとして、御影堂と阿弥陀堂での同時に二つの場で勤行・御法話・感話がなされ、各地から約十万人の方々がご参詣された。

期間中には、私も何度か参詣をし、聴聞させて頂いた。その中で感銘を受けた御法話の講題が『悲喜の涙を抑えて』であった。このお言葉は、〈教行信証 化身土巻・末巻〉に親鸞聖人がお書きになった御言葉である。

今から二十八年前、恩師に頂いた書の御言葉が『悲喜の涙を抑えて』であった。以前から私自身、何故、親鸞聖人が『悲喜の涙を抑えて』と抑えてとお書きになったのが、わからなかったのであるが、幸いにもそのことを、今回の『慶讃法要』の御法話で聴聞する機会を得た。

私の生活は、実に悲喜こもごもの生活そのものである。喜んでみたり、悲しんでみたり、恨んでみたり、腹をたててみたり、見る物、聞く事、によって様々な感情が入り乱れる一喜一憂のなかにその営みがある。

ただ、悲喜こもごもの生活の暮らしの中で、「あのときは苦しかった」、「あのときは悲しかった」、「あのときは嬉しかった」と、悲喜をただ、過去の出来事として、追憶の彼方へ押しやってしまえば、単なる思い出としてしか遺らない。

悲喜の涙を抑えて



第 5 6 号
令和 5 年
(2023年)
7 月・8 月・
9 月
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

それこそ、愚痴と恨みの人生と成り果て、死にきれない人生の歩みとなるのではないか。

日々の悲喜の出来事を受動的Ⅱ（廣瀬杲講義集第三巻文中のお言葉）に生き、対処だけで過ごしてしまう、その生活を『死にきれない人生を送るのなら、愚痴と恨みしか遺らない』と、師は仰る。

悲喜の生活の主人公はいつも私自身である。私に起きる諸事は私と関わりのあることに違いない。日常のなかで起きる悲喜はいつも私を問うてくるはたらきそのものである。その問いと共に生きるという受止め止めのところのみ、はじめて私が生きたということが成り立つのではなからうか。

誰の人生でもない。私の人生を私が生きている。その刻一刻の諸事の中、悲喜の生活の真只中で、「お前はそれで、今を生きていると言えるのか」「お前は本当にそれで満足か」とこの私に問いつけているその問いと共に生きる。そこに能動的に生きているという自己本来の根源的な声を仏から賜わりながら生きているということが私に求められている事のように思う。

騒がしく、賑やかな悲喜こもごもの生活のなか、雑踏にかき消されながら、雑音に阻まれながらも、微かではあるが静に確実に聞こえる、仏からの問い、自己本来の根源的な声が聞こえるときに初めて、受動的に生きている我から、能動的に生きる我への変革がなされるものと私は頂いている。そのことを宗祖は『悲喜の涙を抑えて』抑えてと、流されて生きるのではなく、引き受けて生きるということを、私に報せて下さっているお言葉であると、私自身は、頂いていることである。

庭園

庭園工事の進捗状況です。西側の梅園予定地（左記中央写真）には、お預かり頂いております梅を植樹していただき、西側境界には塀の前に生垣が植えられ、散策路も砂利で舗装され、完成間近の様子がうかがえます。散策路の脇部分は芝生が敷き詰められています。以前東屋があつた池中央部分（左記上部写真）の石畳みも敷き直されました。茶室北側には、根から二股に分かれた形の良い赤松が二本植えていただき、着々と工事が進んでいます。



↑庭園中央部散策路



↑庭園西側梅園散策路



↑庭園中央部飛び石と芝生



↑茶室北側の新植の赤松

お盆参りのご案内

当院は前年と同様に、本堂での盂蘭盆会法要は内勤めとさせて頂いていただきますが、各お宅へのお盆参りは例年通り参らせていただきます。ご門徒各位へはお盆参りのご案内を同封させて頂いておいておりますので、同封ハガキに希望の日程をご記入の上、ご返送ください。

【列座のつぶやき】

御本山での慶讃法要は皆様一度は足を運ばれましたでしょうか？私は三度ほどご縁をいただきました。ただお参りしたことに満足していくのではなく、「行くさきむかいばかりみて、足もとをみねば、踏みかぶるべきなり。（蓮如上人）」と私の今の姿勢が問われているように思います。（松岡）

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派（東本願寺）

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町26

電話 075-771-2921
FAX 075-748-1665
<http://okazakibetsuin.com>
info@okazakibetsuin.com



↑法要会館棟建て方工事準備の様子



↑書院棟建て方工事の様子



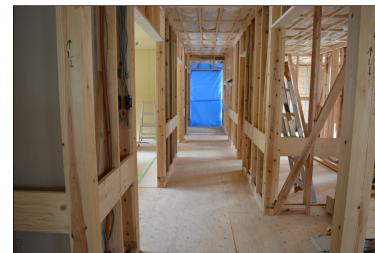
↑書院棟寺務所部分の様子



↑庫裏玄関部分の様子



↑法要会館棟資材搬入の様子



↑書院棟廊下の様子



↑書院棟座敷の様子

庫裏の住居棟、書院棟が上棟しました。住居棟は既に天板が貼られ、ユニットバスが入り、配線も施され、徐々に形が見えてきています。書院棟は座敷、洋間や寺務所をはじめ各部屋の窓枠が設置されています。法要会館棟は木材が搬入され、六月中には上棟する予定です。

庫裏（書院棟・法要会館棟）



←東側塀の解体後



←東側木々伐採



←六月上旬スロープ出入口



←伐採直後の境内

境内

境内東側の木々が伐採されました。車両出入口部分の石積みも施工されており、境内も様変わりしています。今後は参詣者専用駐車場として整備が進んでいきます。

鏡池

鏡池の石積、周りの囲いの石が新しくなりました。池の水は庭園の池との循環により常に一定の水位を保ち、浄水システムにより透き通った鏡池となっています。



整備工事進捗状況

※掲載の写真は五月下旬～六月上旬のものです。

本堂



←完成し足場が撤去された直後の向拝



←正面からの向拝

別院本堂は土壁の塗作業や縁板が施工され、完成間近となっています。予定では、六月末までに建物の工事が終わり、その後京都市による検査などを経て、仏具の搬入のあと八月～九月頃に引き渡しの運びとなります。御本尊動座式が二〇二一年九月、工事前の本堂で最期の儀式となった起工式が同十二月、それから二年近くの時間が経ちましたが、上宗建設様のご尽力もあり、ようやく本堂が竣工する目途がたつてきました。また、御本尊を本堂にお迎えする「還座式」も工事の様子を見て執行を予定しています。



↑本堂内陣正面（内陣金紙貼りの様子）



↑内陣本間（内陣金紙貼りが完了した様子）



↑向拝瓦（上からの様子）



↑向拝の足場解体前



↑本堂建具の調整（西側より）



↑本堂建具（内部）

※掲載写真は六月上旬の最新の様子になります。本堂の仮使用認可の時期等がまだ不明確でありますので、本堂での法要行事は確定次第紙面にてお伝えさせていただきます。竣工後の写真は次号にて掲載予定としています。